

【総務常任委員会所管事務調査報告書】

1. 調査年月日

令和6年7月23日（火）午後1時30分～午後3時50分

2. 所管事務調査項目

地域づくりセンター日野について【地域づくり課】

午後1時30分～午後2時30分

地域づくりセンター美九里について【地域づくり課】

午後2時50分～午後3時50分

3. 調査選定理由

藤岡市では、人口減少や高度情報社会の影響で住民の生活スタイルの変化や価値観が多様になり、地域における人と人のつながりが薄れてきています。自ずと人が集まる地域づくりや生涯学習活動の充実を図るために令和5年4月1日から市内に8つある公民館を「地域づくりセンター」へ移行し1年が経過しましたが、藤岡市は市街・農村・山間部と生活環境が違うさまざまな地域で構成されており、各地域づくりセンターの活動において地域格差が生まれています。

総務常任委員会では、地区別人口が少ない山間部を中心に地域づくりセンターの活動の現状と地域で抱えている課題を把握するため現地調査を行いました。

4. 調査内容

地域づくりセンターの現状と今後について

①【地域づくりセンター日野】

●人口

日野地域の人口は令和6年7月現在1,221人であり、毎年減少しています。高齢人口比率（65歳以上の割合）は52.9%であり2人に1人が65歳以上になります。

●面積

日野地域の面積は65.04km²であり、藤岡市面積の36%にあたりますが、面積の90%は山林となっています。

●大規模改修

令和4年7月～令和5年1月にかけて1階に多目的トイレ、2階に男女トイレを設置しました。また、太陽光発電設備、蓄電池の導入を行っています。

●事業紹介

歴史講座として上野三碑めぐり、行政講座として地域防災を考える事業を公民館のとき

から引き続き行っています。新たな事業として、「伝統的発酵調味料で家族の健康増進！味噌づくり教室」や「スマートフォン情報モラル教室」を実施しているとともに、フリースペース事業（令和6年7月～）として地域交流の場や児童・生徒の学習の場等の利用が可能なスペースを設けています。

●地域づくり協議会の取組み状況

高崎商科大学特任教授 熊倉浩靖氏をアドバイザーに迎え、地域の課題を洗い出すグループワークを開催。

●地域の課題

- ◎災害時の不安 ◎産業・観光の弱さ ◎来訪者のマナー ◎鳥獣被害
- ◎人口減少・高齢化 ◎夏川場の来訪者マナー ◎交通の利便性

グループワークで挙げられた住民の声として、お年寄りが楽に病院や買い物に行けるよう交通手段の確保。スーパー等の生活品が購入できる店舗が欲しい。人口減少が顕著であり若者が増える移住体制を整えてほしい。観光地としての基盤が欲しいなど意見があがってきています。

●ヴィジョン

◇産業・観光

- ・土と火の里公園の活性化（地元の人も集う場に。体験+α広げたい。）
- ・土と火の里公園を活用して移動販売の拠点を作る（日用品に特化でも良いのでは。）

◇防火

- ・地元の人が本当に駆け込める避難所をつくる（人員、食料、毛布等の充実。）

◇教育

- ・日野小を「特色ある学校」にして、子どもを集める（南牧村なんもく学園を参考。）

◇環境整備

- ・夏の川場を安全に訪れられるようにする（トイレを時期だけ仮設で置く等。）

●ミッション

- ・産業・観光において、「産業・観光部会（仮称）」、「歴史・文化部会（仮称）」を立ち上げる。
- ・防災において、避難訓練等、日野地区地域づくり協議会（本会）で取り組む。
- ・教育において、西連携小中一貫校学校運営協議会等を通じて、コミュニティスクール単位で取り組む。
- ・環境整備において、どの場所に人が訪れているのか夏の実態調査を日野地区地域づくり協議会で取り組む。



地域づくりセンター日野にて説明を受ける



地域づくりセンター日野 正面玄関

②【地域づくりセンター美九里】

●大規模改修

令和４年度に２階トイレを新設。太陽光発電システム、蓄電池の新設。

●事業紹介

- ・令和５年度利用実績 ９，５００人
- ・定例教室 ３教室 延９３０人 短期教室１１教室 延１９１人（ヨガ教室、オカリナ教室、ストレッチ教室、スイーツ＆パン作り教室、健康講座・相続講座、新事業 新卒者向けメイクセミナー等）
- ・貸館 ２０の定期利用団体により 延６７７回 ６，５５６人の利用
- ・令和６年２月３日に活動発表会を５年ぶりに開催。１７５人が参加または来場

●地域づくり協議会の取組み状況

高崎商科大学特任教授 熊倉浩靖氏を招き、グループワークを実施しました。美九里地区の課題解決に向けたアイデアを出し合いました。

◇安全

- ・避難マニュアルの作成⇒美九里地区避難マニュアルを作成。美九里地区全戸に配布済。
- ・地域安全課による出前講座の実施

◇高齢化

- ・地域の高齢者に小学校の環境整備に参加してもらう。

◇住民同士のコミュニケーション

- ・公会堂でお茶を飲みながら交流できる場を開く。
- ・人が集まるイベントを防災公園や総合運動公園で開く。

●令和６年度の事業予定

地域づくりセンター美九里の事業として、幅広い年齢層の利用拡大に向け、より多くの人に興味を持ってもらえるような講座や行事を企画・実施していく。

地域づくり協議会の事業として、美九里地区避難マニュアルを活用した防災講座や美九里東小学校、西小学校の小学校草むしり、樹木の剪定等の環境整備を実施していく。



地域づくりセンター美九里にて説明を受ける



地域づくりセンター美九里 正面玄関

③質疑

委員からは以下のような質問があった。

【地域づくりセンター日野】

問 「地域づくりセンター」の名称が「覚えづらい。」「呼びづらい。」と言われていたが1年経過して住民の感想はどうか。また、地域密着の施設という事で新しく利用する市民は増えたか。伺います。

答 名称については、当初と違い「覚えづらい。」「呼びづらい。」という声は出なくなりました。1年が経過し、住民の皆様へ「地域づくりセンター」の呼び名が徐々に浸透してきています。新しく利用する住民ですが、日野地区は元々人口規模が小さくあまり変わりはありません。ただ、新事業をすることで、新たな住民の参加がしやすいと考えています。平井地区と連携事業を開催するなど日野地区以外でも参加できるように活動していきます。

問 住民の声では買い物支援、移動支援を希望されているが実施予定はあるのか。人が集まりやすい観光の支援事業は行われているか。伺います。

答 現在、移動支援は地域づくりセンターでは計画がありません。買い物支援は民間でベルクが地域密着型事業として行っている「移動スーパーとくし丸」の移動販売車は来ているのでこちらでは計画がありません。観光に関しては、産業・観光部会を立ち上げており、この地域の良いところを情報発信していく取組みの話し合いが進んでいます。

問 日野の住民だけでなく地域外の人をファンにする交流イベント具体的にどのような事業を行っているか伺います。

答 交流イベントとして健康マージャン、武井礼子さんを招いたイベントを開催しましたが、多くの住民や地域外の人参加があり大変賑わいました。

問 事業に参加してみると各区で参加者人数のバラつきがあるように思えます。区ごとに参加者数の分析をしているか伺います。参加が少ない区へ声掛けを重点的に行うべきと考えます。

答 区ごとの参加者数は把握していません。区ごとに参加者数のバラつきがある理由は移動手段がないためととらえています。

【地域づくりセンター美九里】

問 地域づくりセンターの名称は浸透したか。また、新しく利用する市民は増えたか。そして、地域づくりセンター美九里は活発に活動しています。「地域づくりセンター」事業の理想（ゴール）は、地域の声を吸い上げ、誰もが地域づくりに参加してもらい繋がりある地域を創るところにあると思うが、発言力のある人以外の声も吸い上げ事業がつくられているのか伺います。

答 地域づくりセンターの呼び名は1年経過し、年配の方にも浸透してきているので当初の不安は感じていません。新しい利用者は今まで行ってなかった若者をターゲットにした事業を開催することで増えています。「新卒者向けメイクセミナー」「スイーツ&パン作り教室」が若者の口コミで広がり人気です。現在、サイレントマジョリティーを引き出す手法は行っていません。

問 美九里地区ではシルバー事業予算はどのようにしているのか伺います。

答 藤岡市の一般会計で支出しています。講師を招く場合は市の謝礼金で、また、参加者

負担金は各区からの支出金をいただいています。

問 大規模改修工事で蓄電池、太陽光発電の設置を行ったが、防災に役立つ物なのか伺います。

答 100Vの電源で照明や携帯の電源に使える程度のもので。

問 美九里地区避難マニュアル作成が非常に良いと思うが作成までの経緯を伺います。

答 避難マニュアルは藤岡市全体だと見づらいと意見がありました。地域限定で見やすいものが欲しいと区長からの提案があり、地域づくり協議会を経て作成に至りました。

問 公民館時からの管理人制度を廃止しシルバー人材に管理を移換していると思うが不自由な事はあるか伺います。

答 問題なく管理できています。

問 地域づくりセンター事業では、若手職員の配置を積極的にしているが、1年経過し若手職員からの感想を伺います。

答 始めは不安でしたが、徐々に顔なじみの地域の方が増え、今では市民の声を近くで聞けるようになり大変充実しています。

問 地域で話を進めていく案件だが、美九里東小と美九里西小の統廃合、地域の避難所としても体育館のエアコン設置について伺います。

答 小学校の統廃合については、すぐに決められませんので、徐々に地域で相談していく必要があると思います。体育館へのエアコン設置については、エアコンだけでなく断熱材も必要になります。厳しい夏でも教育できるよう。また、避難所としても必要であると思います。

問 若い世代のまき込み方について伺います。

答 これからの地域を創っていく若者と地域課題を考えることが大事と捉えています。地域の拠点となれるように、若い世代の声を吸い上げ情報発信していく必要があると思います。

5. 所感

「地域づくりセンター」は立ち上がり時、名称が「覚えづらい。」「呼びづらい。」との意見が上がっていましたが、1年が経過し住民主導で活動していく中でそういった声が無くなり名称も浸透してきています。また、常駐職員に若手を採用している点において、住民の声を直接聞けることで職員自身の経験向上、住民自身も関わりやすさが生まれることで多くの声を抽出できています。さらに、住民主導で開催している地域づくり協議会は会議の中で各地域の課題を抽出できおり、解決のための計画がつけられていました。よって、「地域づくりセンター」は地域づくりの拠点として機能し始めていることが分かりました。

しかし、少子高齢化が進み地域の人口は毎年減少傾向にあります。美九里地区では、現状は課題に対して事業が実施され、若者向けの新事業が活発に実施されていますが、日野地区

ではすでに地域活動の担い手不足や移動手段など地域の課題解決に向けての事業実施が難しい状況となっています。美九里地域においては、地域の発言者や団体代表者の意見だけでなく、若者や子育て世代の意見が反映されるところを目指す点、日野地域においては、地域の人だけで考えるのではなく、地域外の人巻き込みながら地域づくりをしてはどうかと意見があがりました。

この「地域づくりセンター」事業は、自ずと人が集まる地域の構築を問題としており、現状位置として「地域の事は地域で考える」状況がつくれています。理想の位置を「地域の事はみんな（普段は意見できない人さらには地域外の人）で考える」をゴールとし、課題として、現状の規模で活動し続けるのではなく、常にみんなが関わる環境づくりやみんなの合意形成の場となることを目指して運営していく必要があります。

以上のとおり、報告いたします。

令和6年9月20日

総務常任委員会

委員長 丸 山 保

副委員長 加 部 雄一郎

委 員 小 西 貴 子

窪 田 行 隆

冬 木 一 俊